

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◆◆◆ No.0477 ◆◆◆

18/04/04

【 4月相場、経験則では「ドル高・円安」有利!? 】

「経験則の観点から1年で一番動く月」——としていた3月相場は、月間変動幅 2.66 円とまったくの期待外れに終わった。1月の変動が 5.10 円、2月は同 4.93 円であったため、3月は一カ月を通してその半分程度の動きだったということになる。

そうした状況を踏まえ、今回の当レターでは恒例となっている経験則を参考にした4月の月間見通しをレポートするが、4月変動の前に、過去の経験則からすると足もとを含めた「期末から期初相場は非常に荒れ易い」——ということ、まずはしっかり頭に留めていただきたい。

◎3月と逆方向に動くこと多し、3月円高進行の調整も!?

4月相場についての展望を指摘する前に、前段で指摘した「3月期末から4月期初」にかけての相場を簡単に触れておくと、やや特異な価格変動、平たく言えば非常に荒っぽい上下動をたどることが少なくないようだ。

たとえば、2014年の場合、ドル/円は3月27日の101.71円をドルの安値に、1週間後の4月4日には高値104.13円を記録。しかし、再び下落に転じると4月11日にはドル安値101.32円を示現している。わずか2週間程度のあいだに「行って来い」、往復5円を超える急変動だった。また、2015年、ドルは月初からじり安をたどり、3月26日に118.33円の月間安値をつけたのち、月末最終日にかけて120円台を回復、4月13日には120.84円を記録しているし、昨2017年もなかなか荒っぽい変動が観測されている。今年についても、上下に振れる乱高下には一応要注意かもしれない。

では、本題となる4月相場について、まずは1990年以降昨年まで28年間の星取表を指摘すると、12勝16敗で、やや円高有利な状況となっているようだが、それほど極端に偏っているわけではない。特徴と言えるほどではないだろう。

むしろ、一般的には「名実ともに新年度入りすることで、資本筋などの外債投資が活発化。需給的にはドル高・円安有利」——などと考えられているが、過去の経験則からすると、必ずしもそうとも言えないようだ。少なくとも方向性という点に関してはニュートラル、上下どちらに動いても不思議はないというスタンスで臨みたい。

ただ、調べてみると、4月相場には別に、重要なポイントが2つある。

うちひとつは「3月と4月の価格変動はおおむね逆方向に動くことが少なくない」ことで、とくに2000年以降は例外と呼べるケースが稀であることも興味深い。実際に、3月と4月のドル/円の月足を比較してみると全18例中15例までが的中、それも2003年以降2009年までは7連勝中を記録していたし、その後一度途切れたあと、2014-17年と現在4連勝中だ。

ちなみに、今年の3月相場は小幅ながら陰線引け、つまりドル安・円高で推移したことからすると、今月は年明けから3カ月も続く円買いがようやく一服し、本格的な調整が入る公算が大きいのかもしれない。

そんな4月相場の2つ目の特徴は「一年間のなかで1月に次いで年間の最高値 or 最安値のいずれかを付ける公算が大きい」ことだろう。ちなみに、1月については1990年以降昨年までの28年間で11回がそのパターンに合致しているが、4月は同様に28年間で6回の年間ドル最高値を記録している。

また、4月につける「ドルの高値 or 安値」は単純に年間の最高値もしくは最安値となるだけでなく、それが結果として「歴史に残るヒストリカルレートになる」ケースも少なくないことも、参考意見として指摘しておきたい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

